田中　角栄　の話

ーーーーー田中　角栄　の話ーーーーー

【赤坂、柳橋、新橋でも、料亭の女将で店を大きくするのはどんな奴かわかるか。
　仲居あがり、女中あがりだ。ダメなのは芸者上がり】

この言葉が意味することは、芸者はしょっちゅうちやほやされ、苦労を知らないので、人の微妙な気持ちがわからない。
小さな料亭の女将なら務まるかもしれないが、大きな料亭は取り仕切ることなどできない。

しかし、仲居や女中あがりの人は、面倒な客をなだめすかすことで鍛え上げられているから、客が満足するツボを知っている。
だから店を大きくし、大料亭をも取り仕切ることができる、というものです。

この話は、何も料亭の経営に限ったことではありません。
企業の経営にも当てはめることができないでしょうか。
田中角栄は農村出身で学歴も決して高くはない。
しかし、文字通り叩き上げで、あらゆる階層の人々のことを知っているからこそ、人情の機微やお金の使い方がわかるのかもしれません。
（『究極の人間洞察力』講談社文庫から抜粋）